

情報教育の目標で分類した学習活動一覧（中学校段階）

情報活用能力の3要素	定義からの分類	中学校の各教科における情報教育に「学習内容」赤字は「B情報とコンピュータ」、青字は「目標」「内容の取扱い」「指導上の留意点」の内容。	「指導要領解説」等に見る学習の要点 赤字は情報教育のキーワード	情報教育に関連する「学習活動」（私案）	基本的活動	
課題や目的に応じて情報手段を適切に活用する		・コンピュータの基本的な構成と機能を知り、操作ができること。	コンピュータ本体、キーボードやマウスなどの入力装置、表示装置（ディスプレイ装置）、プリンタなどの出力装置で構成されている最も基本的なコンピュータの構成について知らせる。	コンピュータの基本的な操作ができる。	基本的操作	
		・コンピュータの利用形態を知ること。 ・ソフトウェアを用いて、基本的な情報の処理ができること。	技術・家庭（技術分野 / B情報とコンピュータ） 技術・家庭（技術分野 / B情報とコンピュータ） 技術・家庭（技術分野 / B情報とコンピュータ）	パーソナルコンピュータの利用形態は、応用ソフトウェアの利用によって、文書処理、データベース処理、表計算処理、図形処理等に分類することができることを知らせる。 一般的に使用されている応用ソフトウェアの文書処理ソフトウェア、データベース処理ソフトウェア、表計算処理ソフトウェア、図形処理ソフトウェア等の中から選択し、それを用いて生徒自身が身の回りにおける情報を処理できるようにする。	基本的なアプリケーションソフト（文書処理、データベース処理、表計算処理、図形処理）の特徴と基本的な使い方を知る。 基本的なアプリケーションソフト（文書処理、データベース処理、表計算処理、図形処理）によるデータの作成や基本的な処理を行う。	ソフト活用 ソフト活用
情報活用の実践力 必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造する		・広い範囲から話題を求め、話したり聞いたりして、自分のものの見方や考え方を広めたり、深めたりすること。 ・身近な生活や学習の中から課題を見付け、材料を集め、自分の考えをまとめること。	言語（A話すこと・聞くこと） 言語（B書くこと）	情報通信ネットワークなどを利用して広範囲から集めた情報を読解してものの見方や考え方を深める。 身近にある課題に対してそれに関連する情報を様々な方法で収集し自分の考えをまとめる。	収集・判断 収集・判断	
		・広い範囲から課題を見付け、必要な材料を集め、自分のものの見方や考え方を深めること。	言語（B書くこと）	広い範囲から課題を見つけ、図書館や情報通信ネットワークなどを利用してものの見方や考え方を深める。	収集・判断	
		・自分の意見が相手に効果的に伝わるようにし、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと。	言語（B書くこと）	意見の中心をはっきりさせ、有効で適切な情報をテレビ、新聞・雑誌、コンピュータや情報通信ネットワークなどの様々な情報手段を通して、広い範囲から収集し、これを積極的に活用する。	情報通信ネットワークなどから収集した資料を活用して、自分の意見を効果的に相手に伝える工夫をする。	収集・表現
		・目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てること。	言語（C読むこと）	必要な情報を収集して「自分の表現に役立てる」。情報を取捨選択したり加工したりすることや、挿入場所を検討する。他人の文章を引用する場合には、著作権の問題等にも十分留意する。	情報通信ネットワークなどから収集した情報を、自分の意見を効果的に表現するために、著作権に配慮しながら活用する。	収集・表現
		・様々な文章を比較して読んだり、調べるために読んだりすること。	言語（C読むこと）	主として情報活用にかかわる言語活動において、目的や意図に応じて複数の文書と比較して読んだり、調べるために読んだりする。	様々な情報手段で集めた複数の文章を、それぞれ比較しながら読んだり、調べながら読んだりする。	収集・判断
		・47都道府県の中から幾つかの都道府県を取り上げ、地理的事象を見いだして追究し、地域的特色をとらえさせるとともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせる。	社会（地理的分野）	都道府県規模になると、身近な地域と違って景観を観察するといった方法はとりにくいが、一方で電話やファックス、インターネットなどを活用しての取材や資料の収集が有効である。	様々なデータベースを活用して各地の地理情報を効率よく調べ、都道府県規模の地域的特色をとらえる。	収集・判断
		・地域に関する情報の収集、処理に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的に活用するなどの工夫をする。	社会（地理的分野）	インターネットは各地の地理情報の収集に有効であり、また、コンピュータは地理情報を地図化、グラフ化したりするなどの処理に有効である。	情報通信ネットワークを活用して収集した地理情報を地図化したりグラフ化したりして表現する。	収集・処理・表現
		・身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味や関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。	社会（歴史的分野）		情報通信ネットワークなどの情報手段で収集した地域の歴史的资料を多面的・多角的に考察し、事実に基づいた公正な判断を行う。	収集・判断
		・現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。	社会（公民的分野）		情報通信ネットワークなどの情報手段で収集した社会的事象に関する資料を多面的・多角的に考察し、事実に基づいた公正な判断を行い、適切な方法で表現する。	収集・判断・表現
		・物理的な事象・現象についての観察、実験を行い、観察・実験技能を習得させ、観察、実験の結果を考察して自らの考えを導き出し表現する能力を育てるとともに、身近な物理現象、電流とその利用、運動の規則性などについて理解させ、これらの事象に対する科学的な見方や考え方を養う。（目標）	理科（第1分野）	観察、実験を行うに当たっては、表やグラフの作成、コンピュータなどの活用、実験レポートの作成や発表などを通して、表現力を養うことが重要である。	物理の観察や実験に当たって、コンピュータを利用して表やグラフを作成したり、実験レポートの作成や発表などを行う。	判断・処理・表現・伝達
		・化学的な事象・現象についての観察、実験を行い、観察・実験技能を習得させ、観察、実験の結果を考察して自らの考えを導き出し表現する能力を育てるとともに、身の回りの物質、化学変化と原子、分子、物質と化学反応の利用などについて理解させ、これらの事象に対する科学的な見方や考え方を養う。（目標）	理科（第1分野）	観察、実験を行うに当たっては、表やグラフの作成、コンピュータなどの活用、実験レポートの作成や発表などを通して、表現力を養うことが重要である。	化学の観察や実験に当たって、コンピュータを利用して表やグラフを作成したり、実験レポートの作成や発表などを行う。	判断・処理・表現・伝達
		・各分野の指導に当たっては、観察、実験の過程での情報の検索、実験、データの処理、実験の計測などにおいて、コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的に活用するよう配慮するものとする。（内容の取扱い）	理科	理科の学習においては、自然の事象・現象に直接触れ、観察、実験を行い問題の把握、情報の収集、処理、一般化などを通して科学的に調べる能力や態度を育て、科学的な見方や考え方を養うことが大切である。これらの活動を展開する中で、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用することは、生徒の学習の場を広げたり学習の質を高めたりするための有効な方法である。	理科の観察や実験の過程で、コンピュータや情報通信ネットワークを利用して、実験データの処理や実験の計測などを行う。	収集・判断・処理
・花や葉、茎、根の観察記録に基づいて、それらを相互に関連付けて観察し、植物が体のつくりの特徴に基づいて分類できることを見いだすとともに、植物の種類を知る方法を身に付けること。	理科（第2分野）	具体的な植物名を調べるためには、植物図鑑だけでなくコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段の積極的な活用に留意する。	コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用して植物の名前を調べる。	収集・判断		

	<ul style="list-style-type: none"> ・近な動物の観察記録に基づいて、体のつくりや子の生まれ方などの特徴を比較し、動物が幾つかの仲間に分類できることを見いだすこと。 	理科(第2分野)	動物園、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段から得られる資料なども活用し、生徒自身で分類の観点を見ることができるような指導をすることが大切である。	コンピュータや情報通信ネットワークなどから得られた資料を使って動物の分類の観点を発見する。	収集・判断
	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な気象の観察、観測を通して、天気変化の規則性に気付かせるとともに、気象現象についてそれが起こる仕組みと規則性についての認識を深める。 ・自然がもたらす恩恵や災害について調べ、これらを多面的、総合的にとらえて、自然と人間のかかわり方について考察すること。 	理科(第2分野)	コンピュータを活用した情報通信ネットワークによる情報収集や情報交換等の活動、地域の気象台や測候所、民間気象情報サービス機関との連携などが大切である。	情報通信ネットワークを活用して気象台や測候所から気象情報を収集する。	収集・判断
	<ul style="list-style-type: none"> ・自然がもたらす恩恵や災害について調べ、これらを多面的、総合的にとらえて、自然と人間のかかわり方について考察すること。 	理科(第2分野)	自然の恵みや自然災害を調べるときには、図書館、博物館、科学館など地域の様々な施設、設備を利用するとともに、空中写真、衛星画像、情報通信ネットワークなど多様な総合化された情報を活用することが大切である。	空中写真、衛星画像、情報通信ネットワークなど多様な総合化された情報を利用して自然の恵みや自然災害を調べる。	収集・判断
	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽指導については、指導上の必要に応じて弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電子楽器及び世界の諸民族の楽器を適宜用いること。また、和楽器については、3学年間を通じて1種類以上の楽器を用いること。(内容の取扱い) 	音楽		コンピュータと電子楽器を組み合わせて表現力豊かな演奏や創作を行う。	創造・表現
	<ul style="list-style-type: none"> ・創作指導については、理論に偏らないようにするとともに、必要に応じて作品を記録する方法なども工夫させること。(内容の取扱い) 	音楽(A表現)	五線譜による記譜だけでなく、文字、絵、図、記号、コンピュータ等機器を活用した方法なども含め、創作したものを記録する方法を工夫させ、生徒の個性的な創作や自己表現を一層活発にする必要がある。	コンピュータ等機器を活用した記譜を使って創作や自己表現を行う。	創造・表現
	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、適宜、自然音や環境音などについても取り扱うとともに、コンピュータや教育機器の活用も工夫すること。(内容の取扱い) 	音楽(A表現B鑑賞)	コンピュータやシンセサイザーなどを用いた学習活動は、表現や鑑賞において効果を上げるものである。こうした機器に関心を示す生徒が多く見られるようになってきており、音楽学習に対する意欲を高めるためにも有効である。	コンピュータやシンセサイザーなどを利用して音楽を表現したり鑑賞したりする。	表現
	<ul style="list-style-type: none"> ・表したい内容を漫画やイラストレーション、写真・ビデオ・コンピュータ等映像メディアなどで表現すること。 ・伝えたい内容を図や写真・ビデオ・コンピュータ等映像メディアなどで、効果的で美しく表現し伝達・交流すること。 	美術(A表現)	コンピュータという道具を使ってどのように楽しく豊かに表現するかを学習することを大切にする。	漫画やイラストレーション、写真・ビデオ・コンピュータ等映像メディアなどで情報を表現する。	表現
		美術(A表現)	ビデオを活用する場合には、より見やすく、見る他者にやさしい映像づくりをするために、ニュース映像のまとめ方の確実さやコマーシャル映像の視覚的な説得力、優れたドラマや映画の展開の面白さなどのよさや機能性を参考にすることもよい。	提示や発表、掲示、飾ることを創意工夫したビジュアル・コミュニケーションを行う。	表現・伝達
	<ul style="list-style-type: none"> ・製作品の動作を機械的あるいは電子的に制御する方法については、「技術分野/B情報とコンピュータ」との関連を図って一層発展的に取り組ませることも考えられる。 	技術家庭(家庭分野/A生活の自立と衣食住)	インターネット等情報通信ネットワークの活用を含めて、提示や発表、掲示、飾ることを創意工夫したビジュアル・コミュニケーション能力の向上を図る提案が必要である。	コンピュータを活用して衣服の組合せを工夫する。	創造
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や教材の内容に応じて、コンピュータや情報通信ネットワーク、教育機器などの有効活用やネイティブ・スピーカーなどの協力を得ることなどに留意すること。(内容の取扱い) ・情報を収集、判断、処理し、発信ができること。 	外国語	例えば、コンピュータを活用して、衣服の組合せを工夫したり、流行について討論するなどの活動を取り入れ、日常生活における実践につなげることができるようにする。	コンピュータや情報通信ネットワークで情報を入手する。	収集
	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェアを選択して、表現や発信ができること。選択 	技術・家庭(技術分野/B情報とコンピュータ)	再掲(情報の収集、判断、処理との関連) 生徒一人一人が主体的に問題を発見する学習活動を設定し、その問題を解決する過程を通して、必要な情報を収集、判断、処理する。	問題を発見し解決の過程を通して、必要な情報を収集、判断、処理する。	収集・判断・処理
		技術・家庭(技術分野/B情報とコンピュータ)	再掲(情報表現との関連) Webページやプレゼンテーション用資料、劇画等を制作する。	Webページやプレゼンテーション用資料で情報を表現する。	表現
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や教材の内容に応じて、コンピュータや情報通信ネットワーク、教育機器などの有効活用やネイティブ・スピーカーなどの協力を得ることなどに留意すること。(内容の取扱い) ・情報を収集、判断、処理し、発信ができること。 	外国語	再掲(情報発信との関連) コンピュータや情報通信ネットワークを使うことによって、教材に関する資料や情報を入手したり、E-mailによって情報を英語で発信したりすることもできる。	E-mailで英語による情報を発信する。	発信
受け手の状況などを踏まえて発信・伝達する	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェアを選択して、表現や発信ができること。選択 	技術・家庭(技術分野/B情報とコンピュータ)	再掲(情報発信との関連) 相手の心を傷つけないように配慮しながら情報を発信し、相手に情報が正しく伝達及び理解されるように注意させる。	相手に情報が正しく伝達及び理解されるように注意して情報を発信する。	発信
		技術・家庭(技術分野/B情報とコンピュータ)	再掲(情報発信との関連) インターネットを利用する場合には、不特定多数の人が発信した情報が得られること、逆に自分の発信した情報が不特定多数の人に見られることを知らせる。	情報の表現や発信に適したソフトウェアを選んで使う。	表現・発信
	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの基本的な構成と機能を知り、操作ができること。 	技術・家庭(技術分野/B情報とコンピュータ)	再掲(コンピュータの基本的特性との関連) コンピュータ本体、キーボードやマウスなどの入力装置、表示装置(ディスプレイ装置)、プリンタなどの出力装置で構成されている最も基本的なコンピュータの構成について知らせる。	コンピュータの基本的な構成と機能を知る。	コンピュータ
	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェアの機能を知ること。 	技術・家庭(技術分野/B情報とコンピュータ)	再掲(コンピュータの基本的特性との関連) コンピュータは、ハードウェアとソフトウェアで構成されており、コンピュータを目的に応じて働かせるには、ハードウェアを動かすためのソフトウェアが必要であることを知らせる。	コンピュータを目的に応じて働かせるにはソフトウェアが必要であることを知る。	コンピュータ
情報活用の基礎となる情報手段の特性	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の伝達方法の特徴と利用方法を知ること。 	技術・家庭(技術分野/B情報とコンピュータ)	再掲(コンピュータの基本的特性との関連) コンピュータを利用した情報の伝達方法の特徴と利用方法の学習を通して、目的に応じた適切な利用手段が選択できるようにする。	コンピュータを利用した情報の伝達方法の特徴と利用方法を知る。	情報伝達の特性
	<ul style="list-style-type: none"> ・マルチメディアの特徴と利用方法を知ること。選択 	技術・家庭(技術分野/B情報とコンピュータ)	再掲(マルチメディアとの関連) コンピュータを利用することによって、動画、静止画、音楽、音声、文書など多様なメディアの素材を、デジタルデータとして取り扱い、各種のデータを複合して一元的に活用する操作が可能になることを知らせる。	動画、静止画、音楽、音声、文書など多様なメディアの素材をデジタル化して一元的に活用する。	情報伝達の特性
	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェアを選択して、表現や発信ができること。選択 	技術・家庭(技術分野/B情報とコンピュータ)	再掲(マルチメディアとの関連) マルチメディア用ソフトウェアやアニメーション用ソフトウェア等を目的に応じて選択し、コンピュータ上で実際に制作を体験させる。	マルチメディア用ソフトウェアやアニメーション用ソフトウェア等を利用して情報の表現や発信を行う。	情報伝達の特性

情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法	<ul style="list-style-type: none"> ・数値計算を行う場面では、必要に応じて、そろばん、電卓(グラフが表示できるものも含む)、コンピュータ等を活用して、学習の効果を高めるよう配慮する。(指導上の留意点) ・電卓(グラフが表示できるものも含む)、コンピュータ等を活用して取り扱うよう配慮するものとし、疑似体験、視覚的な把握理解、性質の発見等に活用するよう特に配慮する。(指導上の留意点) 	数学		数値計算を行う場面、必要に応じて電卓(グラフが表示できるものも含む)やコンピュータを活用する。	問題解決
	<ul style="list-style-type: none"> ・火山の形、活動の様子及びその噴出物を調べ、それらを地下のマグマの性質と関連付けてとらえるとともに、火山岩と深成岩の観察を行い、それらの組織の違いを成因と関連付けてとらえること 	理科(第2分野)	火山活動については、実際に観察を行うことが困難な場合が多いので、火山噴出物の実物と関連させながら視聴覚教材やコンピュータシミュレーションなどを活用することが考えられる。	火山噴出物の実物と関連させながら視聴覚教材やコンピュータシミュレーションなどを活用する。	問題解決
	<ul style="list-style-type: none"> ・地震の体験や記録を基に、その揺れの大きさや伝わり方の規則性に気付くとともに、地震の原因を地球内部の動きと関連付けてとらえ、地震に伴う土地の変化の様子を理解すること。 	理科(第2分野)	ここで扱う事象は再現することが困難な場合が多いので、地震についての生徒の経験や具体的な資料、簡単な地震動のモデル実験、あるいはコンピュータシミュレーションなどを活用して、地震及びこれに関連する地学的事象についての基礎的な理解が得られるようにする。	簡単な地震動のモデル実験、あるいはコンピュータシミュレーションなどを活用する。	問題解決
	<ul style="list-style-type: none"> ・体細胞分裂の観察を行い、その過程を確かめるとともに、細胞の分裂を生物の成長と関連付けてとらえること 	理科(第2分野)	観察が難しい動物細胞の分裂の様子や体細胞分裂に際しての染色体の振る舞いを動的にとらえさせるためには、視聴覚教材やコンピュータシミュレーションの活用が有効であろう。	動物細胞の分裂の様子や体細胞分裂に際しての染色体の振る舞いをコンピュータシミュレーションで確かめる。	問題解決
	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生物の殖え方を観察し、有性生殖と無性生殖の特徴を見いだすとともに、生物が殖えていくときに親の形質が子に伝わることを見いだすこと ・天体の日周運動の観察を行い、その観察記録を地球の自転と関連付けてとらえること。 	理科(第2分野)	天球儀や地球儀を用いたモデル実験やコンピュータシミュレーションを用いて視覚的にとらえさせるなど様々な工夫が必要である。	天球儀や地球儀を用いたモデル実験やコンピュータシミュレーションで天体の日周運動の様子を確かめる。	問題解決
	<ul style="list-style-type: none"> ・四季の星座の移り変わり、季節による昼夜の長さ、太陽高度の変化などの観察を行い、その観察記録を地球の公転や地軸の傾きと関連付けてとらえること。 ・エネルギーの変換方法や力の伝達の仕組みを知り、それらを利用した製作品の設計ができること。 	理科(第2分野)	様々なモデル実験やコンピュータシミュレーションを用いて視覚的にとらえさせるなどの工夫が必要である。	モデル実験やコンピュータシミュレーションで四季の星座の移り変わり、季節による昼夜の長さ、太陽高度の変化などを確かめる。	問題解決
	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの機能を知り、簡単なプログラムの作成ができること。選択 ・コンピュータを用いて、簡単な計測・制御ができること。選択 	技術・家庭(技術分野/A技術とものづくり)	製作品の動作を機械的あるいは電子的に制御する方法については、「技術分野/B情報とコンピュータ」との関連を図って一層発展的に取り組ませることも考えられる。	コンピュータを利用して製作品の動作を制御する。	計測・制御
	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの機能を知り、簡単なプログラムの作成ができること。選択 ・コンピュータを用いて、簡単な計測・制御ができること。選択 	技術・家庭(技術分野/B情報とコンピュータ)	簡単なサンプルプログラムを取り扱い、順次、反復、分岐などの基本的な情報処理の手順を理解させる。	簡単なサンプルプログラムで、順次、反復、分岐などの基本的な情報処理を行う。	プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの機能を知り、簡単なプログラムの作成ができること。選択 ・コンピュータを用いて、簡単な計測・制御ができること。選択 	技術・家庭(技術分野/B情報とコンピュータ)	計測・制御システムは、人間の目や耳の代わりに機械や環境の状態を計測するセンサ、人間の頭脳に相当する検知された情報を処理・判断するコンピュータ、そして、人間の手足の代わりに機械的な仕事を制御する制御機器(アクチュエータ)などの要素で構成されていることを知らせる。	コンピュータを用いて簡単な計測・制御を行う。	計測・制御
	情報社会に参画する態度	<ul style="list-style-type: none"> ・現代日本の発展の過程と国際化の進展のあらましについて理解させるとともに、現代社会の特色に気付かせる。その際、高度経済成長から今日までの我が国や国際社会の変容について、国民生活と関連させて理解させるとともに、国際社会における我が国の役割について考えさせる。 	社会(公民的分野)	「現代日本の発展の過程」については、科学技術の発展や経済成長を通しての国民生活の変化、特に衣食住や生活意識の変化に着目させて理解させるとともに、職業や余暇生活の多様化、情報化の進展などが社会生活に与えた影響について気付かせること。 「現代社会の特色に気付かせる」については、情報化、少子高齢化、国際化など現代社会の特色に気付かせることを意味している 高度経済成長から今日までの我が国や国際社会の変容について、国民生活と関連させて理解させる。については、高度経済成長以降の我が国の変化を「衣食住や生活意識の変化に着目させて理解」(内容の取扱い)させたり、「職業や余暇生活の多様化、情報化の進展などが社会生活に与えた影響」(内容の取扱い)に気付かせる。	情報化の進展が社会生活に与えた影響を考え、情報化による現代社会の特色を理解する。
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、コンピュータなど情報機器の使用による疲労の現れ方や休憩の取り方など健康とのかかわりについて取り上げることにも配慮する。(内容の取扱い) ・情報手段の特徴や生活とコンピュータとのかかわりについて知ること。 		保健体育(保健分野)	必要に応じて、コンピュータなどの情報機器の使用と健康とのかかわりについて取り扱うことも配慮するものとする。	コンピュータなど情報機器の使用による疲労の現れ方や休憩の取り方など健康とのかかわりについて考える。	情報化の悪影響の理解
<ul style="list-style-type: none"> ・主題の発想から表現の確認及び完成に至る全過程を通して、生徒が夢と目標をもち、自分のよさを発見し喜びをもって自己実現を果たしていく態度の形成を図るようにすること。(内容の取扱い) ・情報を収集、判断、処理し、発信ができること。 		技術・家庭(技術分野/B情報とコンピュータ)	コンピュータ等の情報機器や情報通信ネットワークが生活や産業の中でどのように発達し、生活をどう変化させてきたのかを簡単に知らせる。	コンピュータ等の情報機器や情報通信ネットワークが生活や産業の中でどのように発達し、生活をどう変化させてきたのかを知る。	情報化の進展の理解
<ul style="list-style-type: none"> ・主題の発想から表現の確認及び完成に至る全過程を通して、生徒が夢と目標をもち、自分のよさを発見し喜びをもって自己実現を果たしていく態度の形成を図るようにすること。(内容の取扱い) ・情報を収集、判断、処理し、発信ができること。 		美術(A表現)	表現の指導に当たっては、美術に関連して著作権等の知的所有権や肖像権などの権利を尊重し、侵害しないことについても併せて指導が必要である。	美術における表現活動で著作権や知的財産権に留意することを知る。	著作権への配慮
<ul style="list-style-type: none"> ・情報化が社会や生活に及ぼす影響を知り、情報モラルの必要性について考えること。 		技術・家庭(技術分野/B情報とコンピュータ)	再掲(情報発信との関連) 相手の心を傷つけないように配慮しながら情報を発信し、相手に情報が正しく伝達及び理解されるように注意させる。	相手の心を傷つけないように配慮しながら情報を発信する。	情報に対する責任
<ul style="list-style-type: none"> ・販売方法の特徴や消費者保護について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができること。 	技術・家庭(家庭分野/B家族と家庭生活)	情報化の進展に伴う消費生活の変化にも対応し、生徒の身近な事例を取り上げて具体的に考えさせたり、消費生活センターなどを見学したりして、興味・関心をもたせるように工夫する。	情報化の進展に伴う消費生活の変化を、身近な事例を取り上げて具体的に考える。	情報社会に生きる態度	